

新規事業採択時評価結果（平成21年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

事業の概要

事業名	一般国道18号 上田バイパス（延伸）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：長野県東御市本海野 至：長野県上田市大字国分	延長	4.1km		
事業概要	<p>国道18号は、群馬県から新潟県に至る延長約190kmの主要幹線道路であり、長野県内を通過する幹線道路として重要な役割を担っている。上田バイパスは、長野県東御市本海野から長野県上田市大字上塩尻までの計画延長11.5kmのバイパス事業であり、昭和62年度に暫定2車線で一部供用（5.6km）し、事業中間（1.8km）は、平成20年度に暫定2車線で供用予定である。上田バイパス（延伸）は、一般国道18号との分岐部から事業中間区起点部までの一般国道18号のバイパス事業である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>一般国道18号および周辺道路における交通混雑の緩和、事故の減少、生活環境の改善を図るとともに沿線地域の開発と発展等の支援を目的としている。</p>				
全体事業費	179億円（4/4車線）	計画交通量	14,000～42,700台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見  
「国道18号上田バイパス第二期工区建設促進期成同盟会」が設立され、平成13年より毎年要望活動を実施しており、上田バイパス延伸区間の早期事業化を強く期待している。

事業採択の前提条件  
費用対便益：便益が費用を上回っている  
手続きの完了：都市計画決定済（S46.10）

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.6	総費用：141億円 （事業費：125億円 維持管理費：16億円）	総便益：372億円 （走行時間短縮便益：350億円 走行費用減少便益：9.8億円 交通事故減少便益：12億円）	基準年 平成20年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.9（交通量 +10%）	B/C=2.4（交通量 -10%）		
		事業費変動	B/C=2.4（事業費 +10%）	B/C=2.9（事業費 -10%）		
	事業期間変動	B/C=2.6（事業期間 +20%）	B/C=2.7（事業期間 -20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		<p>県内における渋滞損失時間が高い区間（上位1割）の渋滞緩和が見込まれる。                  【渋滞損失時間の改善】約2,132万人時/年 約2,066万人時/年                  【1kmあたり（台kmあたり）渋滞損失時間】約16万人時/年                  全国平均：約2.0万人時/年km（約8.0倍）                  長野県平均：約1.9万人時/年km（約8.4倍）                  県内順位：長野県内センサス区間の上位1割に含まれる（47/769 センサス番号1009）                  【その他の特徴】主要渋滞ポイント（国分西交差点）、イライラ（移動性障害）箇所（上田市大屋付近）を回避する。</p>		
		事故対策		<p>県内直轄国道における死傷事故率が高い区間（上位1割）の事故減少が見込まれる。                  【死傷事故率】約452件/億台キロ（現況）（死傷事故率比（県内平均比）6.7（現況））                  全国平均：約98.9件/億台キロ（約4.6倍）                  長野県平均：約67.8件/億台キロ（約6.7倍）                  県内順位：長野県内区間の上位1割に含まれる（25/1722 ITARDA区間）</p>		
	歩行空間		幅の広い歩道が整備され、良好な歩行空間が確保される。			
	社会全体への影響	住民生活		国立病院機構長野病院がリスクの高い分娩を休止し、出産に関わる搬送が広域化。周辺地域の病院までのアクセス向上を図り、地域の出産に関わる医療体制を支援する。		
		地域経済		バイパス供用区間の周辺地域では、商業施設等の進出に伴い交通量が増加傾向。当該区間の整備により交通需要への的確な対応と地域の更なる活性化を支援する。		
		災害	-	注目すべき影響はない		
環境			CO <sub>2</sub> 、NO <sub>x</sub> 、SPM排出量の削減。 （CO <sub>2</sub> 削減量：1,370t-CO <sub>2</sub> /年、NO <sub>x</sub> 削減量：約1t/年、SPM削減量：約0.1t/年）			
	地域社会	-	注目すべき影響はない			
事業実施環境			上田バイパスは、一般国道18号等の交通混雑の緩和、事故の減少、生活環境の改善および沿線地域の開発と発展や住民生活を支援する道路として、地元より強く望まれている道路であるため、円滑に事業を推進できる。			

採択の理由

費用対便益比が2.6と便益が費用を上回っているとともに、都市計画が完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、当該事業箇所の現道における渋滞損失時間の改善及び死傷事故率の減少が見込まれるなど、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。  
以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。